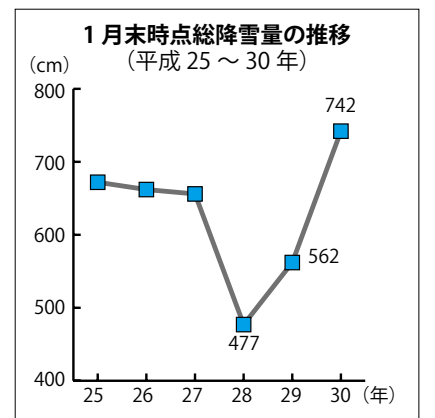


冬がくれたもの

3月に入り、長い冬も終わりが近づいてきました。今月号の特集では、倶知安の冬を知り、今季を振り返るとともに、もうすぐそばまで来ている春のたよりを紹介します。



倶知安の冬・今と昔

この冬は、全国的に記録的な大雪となり、倶知安も同様に、近年で最も多い降雪となっています。過去5年間の総降雪量と比較すると、今季は11月中旬から降り積もった雪が1月末時点で742センチで、昨年の約1・3倍もの降雪量となっています。

かつての倶知安市街地では現在のような除排雪がされておらず、車を走らせることができませんでした。そのため、何千もの人や馬を使い除排雪を行うことで子どもの通学路や鉄路を確保していました。やがて、昭和37年には流雪溝となる二本の水路が完成し、昭和50年以降には国道5号線や駅前通りの流雪溝整備が始まったことで、住民の苦

労は少しずつ軽減されるようになったのです。

どうして雪が降るの？

倶知安が、道内でも有数の豪雪地帯であることは言うまでもありませんが、なぜこのように多くの雪が、降り積もるのでしょうか。倶知安風土館の小田桐学芸員に話を聞きました。

「冬になると、ユーラシア大陸内陸部（シベリアや中国北東部）に冷気の塊ができ、偏西風に押され、日本海へと運ばれます。その冷気が対馬暖流に暖められることで大量の水蒸気を含みます。この冷気がニセコ山系にぶつかって急激に冷やされることによって雪になり、山脈内陸部にあたる倶知安に大量に降り積もることになるのです」



積雪 312 ㌾となった年の倶知安町
(昭和 45 年)

学ぶ子どもたち



倶知安小学校4年生の総合学習では、この町の雪について調べ、町建設課やその他のインタビューのほか下級生との雪遊びから学んだことをそれぞれ新聞形式でまとめ、発表しました。除雪をテーマにした子どもたちは、除排雪業にかかる経費や仕事における苦勞を知り、住民の安全に配慮しながら作業を進めていることなどを学び、中にはいつか自分も除排雪業に携わり、地域の役に立ちたいという子もいました。



平昌冬季五輪
バイアスロン女子日本代表
古 谷 沙 理 選 手
(自衛隊体育学校)

世界へ羽ばたく

倶知安の雪は、子どもたちに自然とふれ合う機会を与え、スキーというスポーツを学ばせてくれるものです。ここでは、「スキーの町」倶知安で生まれ育ち、今季全国や世界を舞台に活躍した選手を紹介します。



倶知安町出身古谷沙理選手（自衛隊体育学校）が2月9日（金）に開幕した平昌冬季五輪のバイアスロン競技日本代表として出場しました。

でほしい。現地に行けない町民も応援している」と激励すると、古谷選手は「小学校3年生から高校まで、この地域に支えられながらクロスカントリースキーを楽しむことができた。ここまで来られたのはいつも応援してくれる皆さんのおかげ」と時折声を詰まらせながら感謝の気持ちを述べ、「今季悔しい思いをした仲間がいる。彼らの分までとはいかないが、この大舞台で自分のパフォーマンスをしたい」と力強く意気込みを語りました。さらに、「バイアスロンは最後まで何が起きるか分からない競技。応援してくれる皆さんにドキドキとワクワクを届けたい」と締めくくると、会場からは大きな拍手が沸き上がりました。

壮行会には

多くの町民が

2月1日（木）には、町民が一丸となって古谷選手を応援するべく、町文化福祉センターにて壮行会を開催し、約80名が出席しました。

会の中で、町長が「日本代表であることに誇りを持ち、ベストコンディションで臨ん

五輪での活躍

私たちの期待を背負い臨んだ平昌冬季五輪での古谷選手の結果は、次のとおりです。

女子7・5 ㌾ スプリント	49位
女子10 ㌾ 追い抜き	54位
女子15 ㌾ (日本人最高順位)	85位
※2月20日時点	

古谷選手の母親である康子さんによると、古谷選手は風を読み切れず射撃に苦しみ、悔しそうな表情を浮かべていたといいます。また、古谷選手は「自分が五輪に出場することにより多くの人がバイアスロンという競技に興味を持ってくれたら嬉しい」と話していました。

クロスカントリー競技

古 市 駿 選 手
フィンドレー元 選手

(倶知安中学校)



フィンドレー選手 古市選手

倶知安中学校3年古市駿選手とフィンドレー元選手が、2月8日（木）～11日（日）に秋田県鹿角市にて開催された第55回全国中学校スキー大会クロスカントリー競技に出場し、素晴らしい結果を残しました。この大会について古市選手は、「これまで積み上げてきたものを全て発揮できた」と話しており、フィンドレー選手は「高校に活かせる良い経験ができた」と話していました。

古市 駿 選手

男子クラシカル	28位
男子フリー	19位
男子リレー北海道	5位
(4走ラップ賞)	

フィンドレー 元 選手

男子フリー	33位
(ジュニアオリンピック出場)	

雪と親しむ

記念すべき 30 回目を迎えた今年の雪トピアフェスティバルは、町旭ヶ丘スキー場にて 2 月 17 日（土）と 18 日（日）の二日間にわたり開催されました。今年も会場には、約 20 軒の地域グルメが集結したフードフェスティバルや雪の滑り台などが造られ、多くの来場者で賑わいました。

倶知安の長い冬を少しでも楽しもうと、これまでさまざまな行事が催されてきました

が、現在も続く雪トピアフェスティバルが初めて開催されたのは平成元年のこと。会場となった旭ヶ丘スキー場には、長さ 70m と 30m のジャンボ滑り台が自衛隊の協力により造られ、駅前通りや国道 5 号線沿いには、およそ 150 基の雪像が並び、多くの町民を楽しませました。その後も雪トピアフェスティバルは、会場を中央公園に移すなど試行錯誤を繰り返しながら現在に至っており、冬の一大イベントとして私たちに雪と親しむ機会を与えてくれています。

シーニックナイト



スノーモービルチューブ体験



駆け廻ける！水面忍者わたり



倶知安産ゆめひりか試食会



雪中宝探し



どこまで飛ばせるで SHOW！？



ストライダー体験試乗会



激走！水面滑走トライアル



巨大すべり台



ダンスパフォーマンス



チューバークロス



ROKO スキー試乗会



羊蹄太鼓演奏



春の訪れ

年を重ねてもこの町に住み続けるためには、豪雪であることを乗り越えなければなりません。雪は、私たちにとって切っても切り離すことができない存在です。この町の人たちは、いつの時代も雪と闘いながら、苦しく険しい冬を少しでも楽しく、また快適に過ごすために試行錯誤を繰り返し、その季節を乗り越えてきたのでしょう。

暮らしの中での不便や苦労はあるものの、私たちが日々当たり前口にするおいしい水

をはじめ、素晴らしい農作物や美しい自然景観、また雪とともに元気に育つ子どもたちや、降り積もる雪の魅力に惹かれ集まる人々。この町は雪があるからこそ魅力的であり、雪が倶知安らしさを生み出しているという一面もあります。

3 月を迎えたものの、倶知安はまだ雪の中。それでも間もなく訪れる春を楽しみにしながら、残りの冬も倶知安らしく元気いっぱい乗り越えましょう。

身近で感じる春

私たちの暮らしの中で身近に感じることのできる春について、風土館の小田桐学芸員は次のように話していました。

「4 月から 5 月にかけて森の水辺では、雪どけを待ちかねていたエゾノリュウキンカやミズバショウが花を開きます。特にエゾノリュウキンカがヤチダモやヤチハンノキとともに群生した姿は、春の風情を感じさせます。また、春になると飛来してくる渡り鳥オオジシギの鳴き声や、家庭の食卓にならぶネマガリダケなどの山菜も春の味覚といえ、目で見るだけでなく、耳や舌を通して私たちは暮らしの中でさまざまな春を感じることができます」



小田桐学芸員

春を告げる花や鳥



ミズバショウ



エゾノリュウキンカ



オオジシギ

倶知安風土館

（北 6 東 7） ☎ 22 - 6631

開館時間 9 時～ 17 時（入館は 16 時まで）
休 館 日 毎週火曜、年末年始、展示替え期間不定休
※火曜が祝日の場合は翌日休館